

英語の大学入試は「読む」「聞く」だけから「話す」「書く」も出題

— 「読む」「聞く」「話す」「書く」をバランスよく学習しよう —

開倫塾

塾長 林 明夫

Q : 大学入試の英語に「話す」「書く」も出るようになるのですか。

A : (林明夫: 以下省略)はい。

- (1) 大学入試の「読む」「聞く」もレベルが少しずつ上がってきます。また、与えられたテーマに添って筋道を立てて自由に「話す」「書く」ことのできる能力が求められるように徐々になってきます。
- (2) 例えば、上智大学では、2年後の2015年から英語は大学入試センター試験を止めて、「読む」「聞く」に加えて「話す」「書く」が筋道を立てて自由にできるかどうかを判定するTEAP(ティーブ)というテストを受験を希望する高校3年生に受験してもらい、英語のテストに代えることが決定されました。
- (3) また、例えば、東京大学では、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4つの技能を試験会場のコンピュータを操作しながら受験するTOEFL(トフル)という留学する人のためのテストを5年後の大学入試から用いるようです。

Q : なぜこのような改革が行われようとしているのですか。

- A : (1) 従来のような大学入試センター試験の英語の試験でよい点数を取っても、筋道を立てて「話す」こと、「書く」ことのできる人が極めて少ない。「話す」と「書く」も入試に入れ、役に立つような大学入試にすべきだという意見が、熱心な大学から沸き上がってきたためです。
-
- (2) この上智大学のTEAPの試験は、5年後から今の大学入試を止めて、高3生以上に各科目の到達度テストを年に何回か受験させ、大学の入学試験とするという文部科学省の考えにとっても近いものとして、大きな注目を集めています。この上智大学のTEAPの試験は、英語検定協会といっしょに開発したもので、スタートすれば全国の大学の入試にも広まるものと考えられます。

Q : 開倫塾の塾生はどうしたらよいのですか。

- A : (1) これから英語を学習するときには、「読む(reading、リーディング)」、「聞く(Listening、リスニング)」、「話す(speaking、スピーキング)」、「書く(writing、ライティング)」の4つの技能もすべて同じように大切であるといつも考えることです。
-
- (2) 小学生は全員英検5級合格を、合格したら4級を目指す。
-
- (3) 中学生は全員英検3級合格を、合格したら準2級を目指す。
-
- (4) 高校生は高1と高2の早い時期に高1から高3までの英文法の学習を済ませる。高校の文法の学習が済んだら、高校2年生の3学期までに英検2級に合格を果たす。
-
- (5) 英検2級に合格したら、大学入試センター試験の過去問15年分(追補問題もあるので全部で30回分)を学習し、「読む」「聞く」力を付ける。

(6)同時に、中学校や高校で学習する各教科の基本的な学習内容だけでも英語で学習し、「話す」「書く」力を身に付ける。

(7)まとめると、「英検 5 級」→「4 級」→「3 級」→「準 2 級」→「2 級」→「センター試験問題 15 年分(30 回分)」→「中学校・高校で学習する内容の基本を英語でも学習」。このようになります。

Q : TOEIC(トイック)やTOEFL(トフル)はどうしたらよいのですか。

A : (1)前述したことを小学校、中学校、高校ですべて済ませ、大学進学が決まったその瞬間から、この 2 つのテストの準備をすることです。

(2)TOEIC は実務英語、TOEFL は欧米、特にアメリカに留学するための英語のテストです。どちらも、大学卒業後に企業や官公庁に就職するときに点数を提供することが求められます。求められなくても、よい点数なら申告するほうが有利です。

(3)推薦入試や AO 入試で入学先が決まった高校生は、数年後の採用試験を目指してまずは TOEIC の試験の準備をしましょう。TOEIC の試験内容は「読む」「聞く」ですが、TOEIC には「話す」「書く」の試験もありますので、初めから TOEIC の「話す」「書く」の受験もすることです。

Q : 大事なことは何ですか。

A : (1)高 3 生は入学する大学が決まっても、絶対に英語の学習を中断しないこと。日本では日常生活で英語を使わなくても済みますので、英語学習を一度止めてしまうと、しばらくすると難しいことからどんどん忘れてしまうからです。

(2)そこで、大学生は TOEIC を受験することで英語の学習を継続することが大事です。TOEIC は、英検のように 1 回合格すればそれで終わりという試験ではありません。何回も受験し続ける試験ですので、企業の昇進試験にも用いられます。社会に出て就職してからも定期的に受験し、「読む」「聞く」だけではなく「話す」「書く」の技能についてもスキルアップに励みましょう。

(2)TOEFL は留学する人のための試験ですので、留学する人や、特に難関な日本国内の大学や大学院に入学を希望する人は、TOEIC である程度得点できるようになったら、十分に準備をした上で TOEFL にも挑戦しましょう。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : (1)開倫塾は、塾生・保護者・地域社会の皆様の成功の実現、多様な選択肢のある人生の実現に少しでも貢献させて頂くことを目指し、以上のような英語教育の大きな流れを踏まえながら、今後、最善のサポート体制づくりを目指します。

(2)英語のスキルアップのためには、自己学習能力の育成が不可欠ですので、皆様が知識・情報・技術を用いながら、自律的に多様な集団で交流できるよう、英語学習の効果的な方法等についても情報提供をし、皆様と共有を図りたいと考えます。

以上

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)